

III 結果のあらまし

1. 定住意識

福生市への居住開始時期は、「昭和 60 年～平成 6 年」(21%) と「平成 7 年以降」(20%) と「昭和 50 年～昭和 59 年」(20%) がいずれも 2 割を超える。「昭和 40 年～昭和 49 年」が 14%、「昭和 30 年～昭和 39 年」が 8%、「昭和 29 年以前」が 2%、「生まれたときから」が 15% となっている。

福生市への定住意向をたずねたところ、「ずっと住み続けたい」(44%) と「当分の間住みたい」(33%) を合わせた“住み続けたい”が 77% となっており、「できれば、市外に移転したい」(10%) と「移転する」(2%) を合わせた“移転したい”の 12% を大きく上回っている。

問 2 で、「できれば、市外に移転したい」あるいは「移転する」と答えた人(92 人)にその理由をたずねたところ、「騒音などの公害がある」が 37% で最も多く、次いで「交通が不便」(21%)、「住宅の都合」(17%)、「子どもの教育環境が悪い」(15%)、「仕事の都合」(14%) の順になっている。

2. 生活環境評価

次に生活環境 12 項目について住みよさの評価をしてもらった。

「非常に満足」と「まあ満足」を合わせた“満足層”が最も多かったのは、「住まいの日当たり、風通し」で 53%、次いで「食料品、日用品の買い物の便」(47%)、「通勤・通学や外出のときの交通の便」(40%) の順になっている。逆に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた“不満層”が最も多かったのは「騒音、振動、大気汚染などの公害」で 58%、次いで「老後の生活を送る場所として」(31%)、「病院や診療所などの便利さ」(25%) の順になっている。

集計に際して、「非常に満足」に 2 点、「まあ満足」に 1 点、「普通」に 0 点、「やや不満」に -1 点、「非常に不満」に -2 点の得点を与え、各項目の総得点を無回答を除く回答者数で割り、平均評価点を算出した。それによると、最も評価が高い項目は「住まいの日当たり、風通し」(0.51) となっている。以下、「食料品、日用品の買い物の便」(0.40)、「公園や子どもの遊び場」(0.28) と続いている。一方、最も評価が低いのは「騒音、振動、大気汚染などの公害」(-0.62) となっている。

生活環境の総合評価についてたずねたところ、「非常に住みやすい」(6%) と「まあ住みよい」(45%) を合わせた“住みやすい”が 51% と半数を超え、「やや住みにくい」(13%) と「非常に住みにくい」(1%) を合わせた“住みにくい”的 14% を上回っている。

3. 福生市の魅力と将来像

福生市の施設や行事の中で、福生市らしい魅力を感じるものあげてもらった。「七夕まつり(8月)」が 65% で最も多く、次いで「多摩川沿いのサクラ並木」(43%)、「横田基地」(42%)、「多摩川」(38%)、「玉川上水」(34%) の順になっている。

福生市の将来像をたずねたところ、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」が 44% で最も多く、次いで「緑豊かな美しい景観のまち」(36%)、「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」(30%)、「安心して子育てができるまち」(29%)、「ごみ減量・リサイクル化が進んだ環境に配慮したまち」(15%) の順になっている。

4. 環境問題

環境問題について関心があるものについてたずねたところ、「地球温暖化」が 64%で最も多く、次いで「ダイオキシンの発生」（53%）、「オゾン層の破壊」（49%）、「自動車・工場などからの排気ガスによる大気汚染」（45%）、「水質汚染」（45%）の順になっている。

地球温暖化を防止するために心がけていることについては、「ごみの分別収集への協力をしている」が 89%で最も多く、次いで「必要のないとき、照明やテレビのスイッチを切っている」（69%）、「不用物品のリサイクル化をしている」（42%）の順になっている。

5. ごみ減量とリサイクル

ごみ減量やリサイクルを進める上で心がけていることについてたずねたところ、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」が 74%で最も多く、次いで「不要な物や使い捨て商品は買わない、過剰包装は断る」（48%）、「再生紙の商品（トイレットペーパーなど）を使用している」（47%）の順になっている。

今後、ごみの分別の種類が増えることについては、「分別の種類は多くなってもかまわない、積極的に協力する」（21%）と「環境の事などを考えると、分別の種類が増えるのは仕方ない」（47%）を合わせた“肯定派”が 68%となっており、「今の分別でよい、増える場合はリサイクル等の施設で分別すべきだ」（17%）と「今でも分別の種類が多すぎるので、もっと簡単にすべきだ」（10%）を合わせた“否定派”的 27%を大きく上回っている。

6. 福祉社会

子どもが健やかに生まれ育つための社会環境づくりのために必要な施策についてたずねたところ、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」が 58%で最も多く、次いで「受験戦争の緩和など、ゆとりのある教育環境の確保」（54%）、「身近な地域で子育ての相談や支援が気軽にできる養育環境の推進」（39%）の順になっている。

老後の暮らし方としては、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」（33%）と「毎日の生活の中で家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」（28%）が 3割前後となっており、「自分に適した仕事を持ちたい」（21%）を上回っている。

ボランティア活動については、「したことがない」が 79%で、「したことがある」の 21%を大きく上回っている。

今後のボランティア活動については、「したいと思う」が 46%となっており、「したいとは思わない」の 13%を大きく上回っているが、「わからない」が 42%と目立っている。

7. 横田基地

横田基地についてたずねたところ、「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」（14%）と「やむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」（57%）を合わせた“あってもやむを得ない”が 71%と 7 割を超えていている。

将来の横田基地のあり方としては、「日本に返還して、福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにすべきだ」が 51%と半数を超えていている。

8. 国際化社会

今後、外国との交流がすすむ中で、どのようなことができると思うかたずねたところ、「外国人に対して、差別をしたり、特別視をしない」が 57%で最も多く、次いで「外国語や外国に関する勉強をする」(38%)、「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通した交流をする」(33%)の順になっている。

国際化を進めていく上で、重点をおくべきこととしては、「小・中学校などに外国人教師を招き、外国語教育に力を入れる」が 44%で最も多く、次いで「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」(44%)、「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」(25%)の順になっている。

9. 行政改革

行政改革に求めるものについてたずねたところ、「民間企業並みのコスト意識で、効率的な運営に努めるべきである」が 69%で最も多く、次いで「事業の委託化や臨時職員の採用など工夫して事務事業を行うべきだ」(45%)、「昼休みや夜間の窓口サービスにもっと力を入れるべきである」(43%)の順になっている。

地方分権を進めるため福生市が合併するしたら、賛成か反対かたずねたところ、「賛成である」(19%)と「どちらかといえば賛成である」(21%)を合わせた“賛成”が 40%となっており、「どちらかといえば反対である」(17%)と「反対である」(10%)を合わせた“反対”の 27%を上回っているが、「わからない」が 33%と多くなっている。

10. 情報化社会

情報化社会において期待する情報についてたずねたところ、「在宅診療」が 36%で最も多く、次いで「施設利用等の在宅予約」(26%)、「趣味・娯楽情報」(24%)、「旅行・レジャー情報」(19%)、「在宅学習」(13%)の順になっている。

情報化を進めていく上で重点をおくべきことについては、「個人情報やプライバシーの保護」が 37%、「情報化と同時に、人と人とのコミュニケーションも大切にする」が 25%となっており、情報化における課題に対する回答が多くなっている。

11. インターネット

インターネットの利用状況をたずねたところ、「利用したことがない」が 58%で約 6 割を占めている。インターネットを利用したことがある人は約 4 割を占めており、「自宅」が 30%、「職場」が 21%と高くなっている。

インターネットをどのように使っているかたずねたところ、「電子メール」が 64%で最も多く、次いで「生活または趣味に関するホームページの閲覧」(56%)、「仕事または学習に関するホームページの閲覧」(44%)の順になっている。この 3 項目以外の項目は 1 割に満たない。

問 23 で、インターネットを「利用したことがない」と答えた人(449 人)にその理由をたずねたところ、「パソコン等を持っていない」が 58%で最も多く、次いで「利用する機会がないから」(46%)、「インターネットについてよく知らない」(45%)の順になっている。

インターネットを「利用したことがない」449人の今後の利用意向は、「はい」が48%、「いいえ」が52%となっており、約5割の人に利用意向がある。

福生市のホームページを見たことがあるかたずねたところ、「見たことはない」が90%となっている。「ほぼ毎日みている」(0.1%)と「週1回以上見ている」(0.5%)、「月1回以上見ている」(1%)、「過去何回か見たことがある」(8%)を合わせた“見ているまたは見たことがある”は10%になっている。

12. 広報

『広報ふっさ』をどの程度読んでいるかたずねたところ、「くわしく読む」(21%)と「ざっと目を通す」(48%)と「必要なところだけ読む」(16%)を合わせた“読む”が85%と9割近くを占めている。

『広報ふっさ』で関心のある記事については、「催しもの関係（市の行事・案内等）」が34%と3割を超え、「保健・衛生関係」(12%)、「福祉関係」(12%)、「市の大きな行事」(11%)が1割を超えている。

『福生市議会だより』をどの程度読んでいるかたずねたところ、「くわしく読む」(6%)と「ざっと目を通す」(43%)、「必要なところだけ読む」(13%)を合わせた“読む”が62%と6割を超えていている。

『福生市議会だより』で関心のある記事については、「可決された案件や陳情」(38%)と「一般質問について」(30%)の2つで68%と約7割を占めている。

13. 市民と行政

どのような方法で市政に参加したいかたずねたところ、「市の各種世論調査」が28%で最も多く、次いで「まちづくりモニター制度」(17%)、「環境保護活動など市民活動」(17%)、「市長との懇談会や対話集会」(14%)、「まちづくり市民会議等」(13%)の順になっている。

最後にこれから市政に対して、特に力を入れてほしいことを3つまであげてもらった。「高齢者福祉対策の推進」が32%で最も多く、次いで「騒音などの公害対策」(29%)、「地震などの防災対策」(16%)、「健康診査などの保健対策」(16%)、「道路や排水の整備」(15%)の順になっている。